

令和元年度(2019年度)

管理事業名	南千里庁舎管理事業				総合計画の体系	大綱政策施策	—			
主な歳出予算科目	一般会計	(款)	8	土木費	(項)	1	土木管理費	(目)	1	土木総務費
部局名	土木部	予算執行所屬	総務交通室							
予算大事業名	南千里庁舎管理事業									
南千里庁舎管理事業	上記以外の歳出予算科目及び予算大事業名									
事業の目的と概要 【目的】 吹田市南千里庁舎の維持管理を行います。 【概要】 南千里庁舎管理事業(吹田市南千里庁舎の施設及び設備の保守点検、修繕等に関すること)										

I 事業の成果(実績)

指標名	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	成果指標の定義
庁舎使用率	%	100	100	100	吹田市南千里庁舎の延床面積に対して、庁舎として使用している割合
成果の説明	土木部内各室の事務室及び倉庫として有効に活用しています。				

II 財務情報

◆行政コスト計算書 (単位:千円)

勘定科目	平成29年度	平成30年度 A	令和元年度 B	差額 B-A
経常収入				
地方税	-	-	-	-
分担金及び負担金	-	-	-	-
使用料及び手数料	-	-	-	-
国庫支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
府支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
財産収入	-	-	-	-
香附金	-	-	-	-
他会計からの繰入金	-	-	-	-
受取利息及び配当金	-	-	-	-
その他	877	859	880	21
経常収入 小計(a)	877	859	880	21
給与関係費	7,150	8,170	14,356	6,186
物件費	18,594	18,502	19,681	1,179
維持補修費	676	1,122	13,069	11,947
社会保障扶助費	-	-	-	-
負担金・補助金・交付金等	18	-	3	3
一般会計への繰出金	-	-	-	-
減価償却費	9,191	9,328	8,907	△422
徴収不能引当金繰入額	-	-	-	-
賞与引当金繰入額	627	980	1,318	338
退職手当引当金繰入額	466	1,787	5,859	4,072
支払利息	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
経常費用 小計(b)	36,722	39,889	63,192	23,303
経常収支差額(a)-(b)=(c)	△35,845	△39,030	△62,312	△23,282
特別収入				
固定資産売却益	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別収入 小計(d)	-	-	-	-
特別費用				
固定資産除売却損	4,105	-	10,650	10,650
その他	-	-	-	-
特別支出 小計(e)	4,105	-	10,650	10,650
特別収支差額(d)-(e)=(f)	△4,105	-	△10,650	△10,650
一般財源調整額(g)	-	-	-	-
当期収支差額(c)+(f)+(g)	△39,950	△39,030	△72,963	△33,933
一般財源充当額	35,722	28,400	48,344	19,945
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
再計	△4,228	△10,630	△24,618	△13,988

行政コスト計算書の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	決算額の主な内容
給与関係費	事業従事人数の増による職員人件費の増 14,356千円(6,186千円の増)
維持補修費	南千里庁舎冷温水発生機修繕による建物等修繕に係る経費の増 13,069千円(11,947千円の増)
退職手当引当金繰入額	事業従事人数の増による退職手当引当金繰入額の増 5,859千円(4,072千円の増)

◆キャッシュ・フロー収支差額集計表 (単位:千円)

区分	平成29年度	平成30年度 A	令和元年度 B	差額 B-A
行政サービス活動収入	877	835	904	69
行政サービス活動支出	27,730	29,235	49,248	20,014
行政サービス活動収支差額	△26,853	△28,400	△48,344	△19,945
投資活動収入	80,000	-	-	-
投資活動支出	88,869	-	-	-
投資活動収支差額	△8,869	-	-	-
財務活動収入	-	-	-	-
財務活動支出	-	-	-	-
財務活動収支差額	-	-	-	-
収支差額 合計	△35,722	△28,400	△48,344	△19,945
一般財源充当額	35,722	28,400	48,344	19,945
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
前年度からの繰越金	-	-	-	-

キャッシュ・フロー収支差額集計表の特徴的な事項

決算額の主な内容	(行政サービス活動支出) 南千里庁舎警備業務 5,714千円 南千里庁舎清掃業務 1,897千円 ほか
----------	---

◆単位あたりのコスト分析(「経常費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。)

指標名	年度	実績	単位あたりコスト	分析内容(前年度との増減理由)
建物1㎡あたりのコスト	平成29年度	3,480 ㎡	10,552 円	給与関係費、維持補修費等の増加に伴い、単位あたりコストが増加しています。
	平成30年度	3,480 ㎡	11,462 円	
	令和元年度	3,480 ㎡	18,159 円	
	平成29年度		円	
	平成30年度		円	
	令和元年度		円	

◆貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目	平成30年度末 A	令和元年度末 B	差額 B-A	勘定科目	平成30年度末 A	令和元年度末 B	差額 B-A
現金預金	-	-	-	流動負債	980	1,318	338
未収金	24	-	△24	地方債	-	-	-
流動資産	-	-	-	短期借入金	-	-	-
財政調整基金	-	-	-	賞与引当金	980	1,318	338
短期貸付金	-	-	-	未払金	-	-	-
徴収不能引当金	-	-	-	リース債務	-	-	-
その他流動資産	-	-	-	その他流動負債	-	-	-
事業用資産	611,807	558,365	△53,442	固定負債	7,755	12,454	4,699
有形固定資産	498,947	465,063	△33,885	地方債	-	-	-
土地	112,860	93,303	△19,557	長期借入金	-	-	-
建物・工作物	-	-	-	退職手当引当金	7,755	12,454	4,699
リース資産	-	-	-	リース債務	-	-	-
建設仮勘定	-	-	-	その他固定負債	-	-	-
無形固定資産	-	-	-	負債の部合計	8,735	13,772	5,037
インフラ資産	-	-	-	純資産	603,097	544,593	△58,503
有形固定資産	-	-	-	重要物品	-	-	-
土地	-	-	-	図書館資料	-	-	-
建物・工作物	-	-	-	投資その他の資産	-	-	-
建設仮勘定	-	-	-	出資金	-	-	-
重要物品	-	-	-	長期貸付金	-	-	-
図書館資料	-	-	-	基金	-	-	-
投資その他の資産	-	-	-	徴収不能引当金	-	-	-
出資金	-	-	-	その他債権	-	-	-
長期貸付金	-	-	-	資産の部合計	611,831	558,365	△53,466
基金	-	-	-				
徴収不能引当金	-	-	-				
その他債権	-	-	-				
負債及び純資産の部合計	611,831	558,365	△53,466				

Ⅲ 財務構造分析

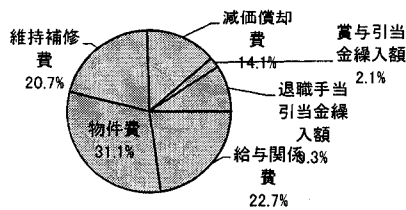
▽人にかかるコストの内訳

事業従事人数	常勤・再任用	非常勤	臨時雇用員	審議会委員等
	月平均	月平均	年間従事延日数	実人数
	2人	人	日	人
給与関係費等	21,533千円	千円	千円	千円
内、時間外勤務手当	0千円			

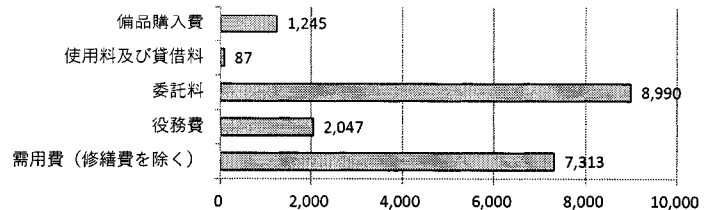
貸借対照表の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	増減理由
土地	保育幼稚園舎への所管換に伴い33,885千円の減
建物・工作物	吹田市南千里庁舎建物の減価償却等により19,557千円の減

▽経常費用の構成割合



物件費の内訳(単位:千円)



▽施設の概況

施設の名称	吹田市南千里庁舎
取得年月日	昭和56年(1981年)4月1日
建物・工作物の取得価額	506,010千円
建物・工作物の減価償却累計額	412,707千円
利用料金収入	-千円

▽分析指標

分析指標	年度	(単位:%)			
		平成29年度	平成30年度 A	令和元年度 B	差 B-A
施設維持補修費比率		0.1	0.2	2.6	2.4
施設老朽化比率		76.4	78.2	81.6	3.4
受益者負担比率		-	-	-	-
徴収不能引当率		-	-	-	-
一般財源充当比率		30.6	97.1	98.2	1.1
経常費用対公共資産比率		7.1	7.7	12.5	4.8

【参考:市保有施設全体の老朽化比率は57.0%】

Ⅳ 総括

▽分析結果の説明

経常費用の主なものは、物件費19,681千円(31.1%)、給与関係費14,356千円(22.7%)、維持補修費13,069千円(20.7%)、減価償却費8,907千円(14.1%)等で経常費用全体の88.6%となっており、昨年度とほぼ同じ構成となっています。ただ、市保有施設全体の老朽化比率が57.0%であるのに対して、吹田市南千里庁舎では、81.6%と高い比率となっていますが、南千里庁舎冷温水発生機修繕の実施に伴い施設維持補修費の増により同比率が昨年度より2.4ポイント増の2.6%となっています。

▽分析結果を踏まえた事業の課題

吹田市南千里庁舎は、昭和56年(1981年)の竣工から39年が経過しており、令和元年度(2019年度)は冷温水発生機修繕を行ったものの施設老朽化比率は81.6%と市保有施設全体の同比率57.0%を大きく上回っています。施設の老朽化に伴う経年劣化により、排水管等の修繕費が増加していますが、厳しい財政状況のもと十分な修繕費が確保できず、必要最低限の修繕のみの実施となっています。また、吹田市南千里庁舎は、災害発生時には道路復旧等の拠点となる重要な施設であることなどから、施設の適切な維持管理や機能向上のため阪急南千里駅西側の第13駐車場跡地に北消防署、中消防署、南千里庁舎及び教育センター等の各機能を集約した「北部消防庁舎等複合施設」の建設を行う予定です。